

1. 評価結果概要表

作成日 平成20年7月2日

【評価実施概要】

事業所番号	3771400219
法人名	悠悠有限会社
事業所名	悠悠香南
所在地	香川県高松市香南町西庄182番地1 (電話)087-815-9335

評価機関名	社会福祉法人香川県社会福祉協議会		
所在地	香川県高松市番町一丁目10番35号		
訪問調査日	平成20年5月14日	評価決定日	平成20年7月2日

【情報提供票より】(平成20年4月1日 事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和(平成)12年4月1日						
ユニット数	1ユニット	利用定員数計	9人				
職員数	10人	常勤	5人	非常勤	5人	常勤換算	5.9人

(2) 建物概要

建物構造	木造瓦葺造り 1部2階建ての1階部分
------	-----------------------

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	28,500円	その他の経費(月額)	約10,000円	
敷金	有(円)	(無)		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	250円	昼食	400円
	夕食	450円	おやつ	100円
または1日当たり 円				

(4) 利用者の概要(4月1日 現在)

利用者人数	9名	男性	2名	女性	7名
要介護1	1名	要介護2	3名		
要介護3	3名	要介護4	2名		
要介護5	0名	要支援2	0名		
年齢	平均 85.8歳	最低	75歳	最高	97歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	寺井山内医院	高松平和病院	おさか脳神経外科
---------	--------	--------	----------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

自然に恵まれ、季節感を感じることのできる静かな環境にあり、「やさしい心」「さわやかな笑顔」「信頼関係を大切に」「いっしょに楽しく」「や・さ・し・い地域との交流」を基本理念に、管理者を始め職員全員が利用者の思いを第1に考えて、明るくにこやかに介護に取り組んでいる。1ユニット9名のメリットを活かして、利用者一人ひとりの得意なことや興味のあることを把握し、個人の潜在能力や思いを活かしたきめ細かな支援をしており、落ち着いた家庭的な雰囲気の中で職員に見守られ自分のペースでゆったりと生活している。生活環境については、天窓からの自然採光、季節の花や緑を取り入れた共有空間、思い思いに整えられた居室など快適な生活空間が確保されている。介護計画の作成や評価、見直しは職員全員がかかわり、利用者の日々の様子や気づき、ケア工夫などを共有して現状に即した計画の作成やケアに活かされている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>主な課題であった運営推進会議を活かした取り組みや地域との交流について、結果を管理者や職員全体で話し合い、改善に前向きに取り組んでいる。また、法人の本部会議で改善事項を報告するなど法人全体で認識している。運営推進会議は回を重ねるにつれ、地域との交流に少しずつではあるが成果をあげている。今後一層の取り組みが期待される。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>評価の意義を理解して、自己評価をケアの見直しと改善の機会ととらえている。職員一人ひとりが自己評価を行い、反省すべき点や改善点をミーティングで話し合い、原点に戻って見直す機会ととらえている。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>事業所からの近況報告や行事および協力依頼、地域の代表からの質問や意見、家族からの要望などを議題としており、行政関係者からの助言などがある。会議は回を重ねるごとに自治会や婦人会、民生委員など地元の理解が深まり、事業所や利用者が地域の一員であるという意識が芽生えている。会議を通じて地元ボランティアの支援が多くなるなど、会議での話し合いがサービスの向上に活かされている。</p>
重点項目③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>毎月書面での報告や面会時、随時電話で健康状態や生活状況などを家族に報告している。意見や要望などは、家族会や運営推進会議の話し合いのなかで聴いている。また、話しやすいように個別に家族と面談し、意見を聴き運営に反映させるよう工夫している。意見箱の設置や苦情窓口の説明をして、意見などを表せる機会をつくっている。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>運営推進会議の成果の一つとして、地元ボランティアとの交流が増えており、外出支援により地域の祭りなどへ参加を予定している。職員も地域の清掃活動に参加するなど地域の一人としての交流に努めている。運営推進会議で認知症や車椅子等の支援の仕方などの勉強会の案も出ている。今後は、地域への情報発信により理解を深め、利用者が地元の人たちと日常的に交流でき、地域と密接につながりを持ちながら暮らす工夫が期待される。</p>

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「や・さ・し・い」を基本として、やさしい心、さわやかな笑顔、信頼関係を大切に、いっしょに楽しく、地域との交流の中で地域で暮らし続けることを念頭においた独自の分かりやすい理念を作り上げている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	ミーティングの度によく話し合っている。また、理念を目につきやすいところに掲示し、全員が共有して実践に活かせるよう取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	運営推進会議を通して自治会、婦人会など地元ボランティアとの交流が増えており、外出支援により地域の祭りなどの参加も予定している。職員が地元の清掃活動に参加するなど、地域の一員としての交流に努めているが、利用者が地元の活動や近隣住民と日々交流をする迄には至っていない。	○	地元ボランティアの支援や近隣住民から野菜を届けられるなどの交流はあるが、さらに利用者が地元の人たちと、日常的に交流できるような工夫が望まれる。認知症の勉強会や車椅子などの支援の仕方など勉強会の案もあり、地域へ情報発信することから理解を深め、利用者が地域とつながりを持ち暮らす工夫が期待される。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価の意義を理解して、自己評価の見直しと改善の機会ととらえ全員で取り組んでいる。外部評価についても結果を管理者や職員が、話し合い改善に前向きに取り組んおり、法人の本部会議で改善事項を報告している。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は回を重ねるごとに自治会や婦人会、民生委員など地元の理解が深まり、事業所や利用者が地域の一員であるという意識が芽生えている。会議を通じて地元ボランティアの支援も多くなるなど、会議での話し合いがサービスの向上に活かされている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議での話し合い時に相談できる関係ができており、課題を随時相談したりパンフレットを置くなど、接点を増やすよう取り組んでいる。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月手紙や写真で利用者の健康状態やホームでの生活状況、金銭管理などを個別に家族に報告している。また、面会などの機会を捉えて報告したり、利用者に変化があれば随時電話で連絡している。職員の異動についても文書または口頭で報告している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会の開催や運営推進会議の話し合いのなかで意見や要望を聴いているが、個別に話し合う方が要望も出やすいため面会時などに直接意見を聴き、運営に反映させるよう取り組んでいる。また、意見箱の設置や苦情窓口の説明をして意見などが言いやすい機会をつくっている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	同法人内の事業所間での異動はあるが、常勤の職員の異動は少なくし利用者への影響に配慮している。非常勤の職員に異動はあるが、新任職員を早めに配置し円滑な引き継ぎができ、利用者の不安を軽減するよう配慮している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月1回定期的に法人内の研修が行われており、非常勤職員を含めほとんど全員が参加している。毎年順次計画的に非常勤職員も含めて実践研修を受講しており、他の外部研修についても情報を提供し、研修を受ける機会を設けている。研修後は報告書を作成し研修内容を共有している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同グループ内にグループホームが3事業所あり、交流の機会を持ち情報交換を行い、連携してサービスの質の向上に取り組んでいる。また、外部研修や地域の連絡協議会に参加し、情報交換や事例検討の機会を持っている。しかし、他の法人の同業者との交流や連携を、具体化するまでにはまだ至っていない。	○	今後、地域の他の法人の同業者と交流をする機会をつくり、相互訪問や勉強会などを通じて、実践的な連携によるサービスの質向上への取り組みが期待される。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入所前に家族とともに本人にも訪問してもらい、入所者と一緒にお茶を飲むなど雰囲気になれる工夫をしている。管理者など職員も事前に家庭訪問や入院先を訪問し、職員にも馴染めるよう工夫している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員が利用者から料理の仕方や家事の工夫などを教わることも多く、利用者と一緒に家事をしたり楽しんだりする場面を多く持ち、共に暮らす仲間として支えあって和やかに生活している様子がうかがえる。		
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中で、会話や行動、表情などから本人の希望を把握している。また、家族からの情報(「バックグラウンド」、「生活の様子」シートや家族の希望)を得て利用者本人の視点で関係者と話し合い検討している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人の状況を十分アセスメントし、医師の意見も参考にしながら、本人の生活歴や意向、家族の希望を聴き、できるだけ反映できるよう関係者で意見を出し合っており、個別具体的な介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3か月に一度担当職員、家族、関係者でケアカンファレンスを行い、介護の評価や職員の気づきを活かして介護計画の見直しを行っている。また、状態に変化があった場合は現状に即した見直しを行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	医療連携など、当グループホームが指定を受けている介護保険のサービスはないが、本人や家族の状況に応じて通院など必要な支援は、自主的なサービスとして柔軟に対応している。県外の家族等の宿泊にも対応している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関の医師の往診が定期的であり、健康管理を行っているが、かかりつけ医は本人や家族が希望する医療機関となっている。受診や通院は県外の家族で同行が不可能な場合は職員が行っている。いずれの場合も医師との連携は取れている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重要事項説明書に「看取りに関する指針」として記載し、入居時から話し合いを行っている。開設時からの利用者も多く、利用後、本人や家族の気持ち、希望の変化もあるので繰り返し話し合いの場を持ち、かかりつけ医を交えて事業所で対応可能な支援方法を踏まえて方針の共有を図っている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者への言葉かけや態度などよく配慮しており、利用者の誇りを傷つけたり、プライバシーを損なうような言葉かけや対応は見られない。「プライバシー保護の取り扱いマニュアル」を作成し個人情報について適切な取り扱いをしている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	事業所や職員のペースではなく、一人ひとりのペースに合わせた支援を行っている。できるだけ本人の思いを聴き出し、希望に沿ってゆったりと自由に生活している様子がうかがえる。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	旬の食材を取り入れたり、利用者の個々の力を活かしながら食事の準備から片付けまで職員と一緒にを行い、同じ食卓を囲んでいる。しかし、調査員が同席したためか入居者も緊張されていたと考えられ、静かに食事をしていった。	○	食事時間は、利用者の状況に応じ職員とお互いに声かけができる雰囲気づくり、また、食事をいただく時の喜びや楽しみにつながる工夫の取り組みに期待したい。
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	週2～3回の入浴となっているが、本人の体調や希望を考慮して入浴している。毎日の入浴も希望があれば可能である。夜間の入浴は行っていないが午後の比較的遅い時間帯に入浴できるよう支援している。ただ、調査した利用者の介護日誌上では、各利用者の入浴回数は、諸般の理由があるかも知れないが週1～3回の変則的回数になっている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者が毎日楽器を弾いたり、新聞を読んだり、利用者の習字を掲示したりと個々人の能力を活かした支援をしている。また、食事の準備・片付け、掃き掃除など、一人ひとりの生活歴を活かした支援ができています。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気が良い時は毎日のように近くのお地藏さんまで散歩に出かけている。ほかに、同じグループの「せんねん村」の庭を散歩し交流をしている。また、ボランティアの支援を受け、重度の利用者も車椅子を利用して花を見に行ったり買物に行ったり、できるだけ外出の機会を持つよう支援している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	鍵をかけることの弊害は皆で認識しており、職員の見配り、気配りを強化し、見守りにより日中鍵をかけないケアを実践している。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	隣家の人も協力、参加して年二回避難訓練、防火訓練を実施している。夜間の火災を想定した訓練も、消防署のアドバイスを独自に実施している。災害に備え、消火器、懐中電灯などの備品も準備している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分量は常に把握、記録しており、水分摂取を促すなど一人ひとりの状態に応じた適切な支援を行っている。栄養士の献立作成により、栄養バランスやカロリーは確保されており、本人の嚥下能力に応じたみ食など工夫している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間は天窓からの自然採光で明るく、玄関や居間に季節の花や小物を飾り季節感を取り入れている。また、利用者の作品や外出のときの写真などを飾り、親しみのある共有空間となっている。浴室、トイレなども清潔に保たれ、居間にはソファを置き居心地よく過ごせるように工夫をしている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具などを持ち込み、環境が急変しないよう配慮している。今までの和室での生活の延長として畳を敷いている居室もあり、仏壇を持ち込んだり家族の写真などを飾り、各人がそれぞれに居心地よく過ごせる居室となっている。		